

『エリートの挫折』

文 伊藤公一

text by Kouichi Ito

大型連休中のバラエティ番組における一コマ。司法試験にも合格したイケメン東京大学医学部学生（テレビ局が命名）が白衣を着て出演し、その神童ぶりを、司会の久本雅美から盛んにいじられていた。

医者になるだけで精一杯だった自身から見れば、彼は異次元の頭脳と努力の持ち主だが、「いまどきの若者」の反応のみで、面白くも可笑しくもなく、さりとして特別な不快感も抱かなかつた。そしてスポーツや芸術、クイズ大会での優勝や、起業で大儲けしたわけでもない青年が、頭がいいだけで、何故に土曜日ゴールデンタイムのゲストに招かれたのが理解できなかつた。

いつ彼が番組出演オフアアを受け、収録されたかは定かでないが、おそらく、同様の頭脳と学歴を誇る米山隆一・新潟県知事の冴えない幕引き前に決まったものであろう。そうでなければ、余りにも洒落にならない。賢者だったら断るはずだ。

また、巷では官僚の雄である財務省の劣戦が続いている。こちらにも、文科系エリート達の挫折であるが、被害者には申し訳ないものの、佐川宣寿・前国税庁長官の憔悴ぶりや、福田淳一・

前事務次官のオッサンぶりには、何故か人間らしさを感じる。

そして、これらの登場人物に比べれば、決して天下の秀才とは思えない籠池泰典・森友学園理事長や麻生太郎・財務大臣の凶太さに感心させられる。

しかしながら、それらの優等生たちの転落を、一瞬にして凌駕したのは、TOKIOの山口達也メンバーの不祥事騒動である。四半世紀近くに渡ってお茶の間の人気者を維持したスターであり、こちらも、正にエリートの挫折だ。

さらには後日、喪服を着こんで謝罪会見に挑んだ他のメンバー4人の優等生ぶりに驚かされた。アイドルグループと言っても、最早、中年男性だが、その会見内容がプロダクションや弁護士への助言無く、自分たちの言葉で語られたのであったら本当に立派だ。

かくも様々な騒動に騒がされた年度初めであったが、本当に大切なことは公文書の改竄や、政治家や役人同士の口裏合わせの真実であらう。

そして、その間の、もっと深刻な話題は、北朝鮮・金正恩委員長と韓国・文在寅大統領の急接近、予定されている米朝トップ会談から中国やロシアの

対応など、国際問題であり、さらには我が国の微妙な立ち位置が、心底気になる。

大型連休で、日本人皆が、くつろいでいる期間、あつという間に朝鮮半島の時差がアジャストされた。隣国の予想外で早い展開に驚かされるばかりだ。

そこで結局、このような不測な状況下には、何度も修羅場を乗り切った安倍晋三首相の運強さと強気な振る舞いに期待するしかないであろうか。

Profile

1958年生まれ。伊藤病院3代目院長。北里大学医学部卒業、東京女子医科大学大学院修了。医師になって以来、国内外にて一貫してバセドウ病、橋本病、甲状腺癌など甲状腺疾患に対する診療と研究にひたすら従事。東京女子医大、筑波大学院非常勤講師。日本医科大学、了徳寺大学客員教授。日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会理事。厚生労働省診断群分類調査研究班班長。伊藤病院<http://www.ito-hospital.jp/>名古屋甲状腺診療所（名古屋分院）<http://www.kojin-kai.jp/nagoya/>さっぽろ甲状腺診療所（札幌分院）<http://www.kojin-kai.jp/sapporo/>

